

実施日	視察先	視 察 項 目	備 考
4月24日	宮城県 仙台市	仙台市起業支援センター について	現地視察
4月25日	岩手県 盛岡市	盛岡駅西口再開発につ いて	市役所 現地視察
4月26日	秋田県 秋田市	秋田市総合交通戦略につ いて	市役所

視察先	項 目	調査内容
仙台市	仙台市起業 支援センター について	<p>仙台市は、人口108万人の政令指定都市である。平成23年3月11日の東日本大震災で多大な人的被害を受け、地域経済にも大きな影響を受けた。仙台市は、平成23年から27年までの「仙台市震災復興計画」を実施するとともに、「仙台経済ステップアッププラン」により、地域産業の復旧・復興に取り組んできた。しかし、東北の震災後の人口減少はさらに厳しさを増し、東北の広域拠点都市として経済を担ってきた仙台市の先行きにも影響を与える。仙台市の持続的な発展のためには、経済の量的拡大だけでなく、質的拡大を重視した新たな視点が重要になると考えた。</p> <p>仙台市は、県外に本店のある民営事業者の支店が多い市である。そのため、リーマンショック、災害などが起これば、「支店を引き上げようか」ということになり、支店の依存度が高いのが、弱点になる。それならば、仙台で起業する人を支援していこうと、仙台経済の新たな成長モデルとして、中小企業を中心とした産業の基礎体力強化による成長、技術改革やブランド力の向上</p>

		<p>などイノベーションによる成長，まちづくりを活かした成長と東北各地へ経済効果を波及・促進させることで仙台経済の成長を維持する。こういう考えのもとで，平成25年から29年度にかけての「仙台経済成長デザイン」を策定した。仙台経済成長デザインでは，平成29年度までの4つの数値目標を決めた。「新規開業日本一」「年間観光客2,300万人」「累積新規雇用10万人」「年間農業販売100億円」である。この数値目標は，おおよそ達成できる見込みとのことだ。</p> <p>新規開業を支援するのが，仙台市企業支援センター「アシスタ」である。これまでも，仙台市産業振興事業団で行ってきた起業家支援をさらに，強化する組織として平成26年1月30日に仙台市産業振興事業団内にオープンした。「明日，スタートする」「明日のスター（起業家）を生み出す」「スタートアップ（起業）をアシスト」で，「アシスタ」という愛称にした。女性が相談に来やすいように，ガラス張りで明るい雰囲気にして，子供たちが遊べるキッズコーナーを設けている。</p> <p>女性の相談件数が74件だったが，662件に約10倍近くふえている。女性の相談がふえたので，女性の相談員が毎日いるようにした。</p> <p>起業支援としては，申請書類の書き方や，経営のこと，チラシやロゴなど販促ツ</p>
--	--	--

		<p>ールやデザインなどの相談，ホームページの作成なども行っている。賞金30万円のビジネスグランプリを行い，優勝した先輩起業家を後輩起業家のアドバイザーになってもらうなど行っている。起業家セミナー，交流イベントの開催を行うときは全て託児つきで女性が参加しやすい工夫をしている。起業支援の補助金はないが，経営のノウハウを全て支援している。起業してからも，開業時，開業半年後，開業1年後の3回フォローアップレターを送付している。</p> <p>平成28年度の相談件数は1,311件，開業件数は108件ということである。柏市でも，きめ細かい起業家支援，特に女性の起業家のための支援について，参考になるところが多いのではないかと思う。</p>
盛岡市	盛岡駅西口再開発について	<p>盛岡駅西口地区の整備事業について話が持ち上がったのは，昭和53年6月とされている。昭和53年中川地区振興協議会結成準備委員会設立，昭和59年度中川町まちづくり要望書町会長から市長へ提出。昭和60年に国鉄の民営化で，国鉄の盛岡工場が廃止になり，国鉄盛岡工場跡地利用対策協議会が発足し，本格的にまちづくりの構想が始まった。まちづくりの起点が住民にあり，21世紀のまちづくりを目指す住民と行政が事業の進みぐあいに合わせて情報を共有し事業を円滑に進めてきたということである。</p>

	<p>昭和61年から63年まで調査を行い、平成元年に地元関係者に対する相談所を設置。平成2年から土地利用計画を審議会で承認、建設省で了承され、都市計画決定している。西口地区の整備は3つの事業を組み合わせて行っている。1つ目は、盛岡広域都市計画事業盛岡駅西口地区区画整理事業。施行面積35.6ha。施行者は盛岡市である。施工期間は清算期間を含め、平成5年度から31年度まで。減歩率は43.1%。事業費は303億円。都市基盤の整備は「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」を導入して公共施設整備を行った。顔づくりのテーマは「ゆとりある空間・いきな都市・ふれあいの快適な生活空間」である。電線類の地中化、雪国なので、ヒートポンプや還元井方式の融雪システムを採用し冬季の快適歩行者空間を確保など行っている。2つ目は、まちづくり交付金事業として、「あそび心 ふれあいのまち」をコンセプトに盛岡市、第3セクター、民間が施行者になり、平成3年から23年までの期間で事業費81億円である。盛岡駅の東西を結ぶ自由通路「さんさこみち」を整備。事業費9.2億円のうち、まちづくり交付金6億円。総事業費207億円、20階建ての地域交流センター「マリオス」が建設された。3つ目は、密集住宅市街地整備促進事業。西口整備計画に従い、住宅に困窮する方などのために、コミュニティ住宅「アピス盛岡」を建設した。施行者は盛岡市、平成7年から10年の施</p>
--	--

		<p>工期間である。事業費は23億5,000万円。1階はデイサービスと在宅介護支援センターを合築している。課題としては、商業業務地区の2区画約15.5億円の土地が売れていないということだ。柏市の西口再開発事業とは事情が違うが、事業を進める上では、住民と行政が情報を共用し、円滑に進めるための努力をしてきたということは、大いに参考にすべきだと思う。</p>
秋田市	秋田市総合交通戦略について	<p>秋田市は、持続可能な地域公共交通網を形成し、市民の利便性向上や移動手段の確保を図るため、平成28年度から32年度まで計画期間である「第2次秋田市総合交通戦略」及び、「第2次秋田市公共交通政策ビジョン」を策定した。歩行者、自転車のための歩道、道路網の整備として、無電柱化、雪を解かす設備など整備。中心市街地の循環バス「ぐるる」の運行、利用環境の向上だ。「ぐるる」は20分おきに走っていて、大人100円、小学生以下は無料。1日乗り放題は300円。事業費は700万円である。バス路線が廃止となった路線を市が補助をしてマイタウンバス（コミュニティーバス）を走らせている。運賃は廃線になった路線バスと同じ運賃で、68歳以上の高齢者は1回100円。ルート本数は57系統。事業費は1億6,000万円。高齢者の足の確保のため、出かけていく人がふえれば、経済効果も上がる。バスの運転手の確保、車両の確保等から、デマンドに切りかえることも考えている。また、バス</p>

		<p>の乗りかえ地点を決めて，小さなバスから大きなバスへ乗りかえてもらえば，交通混雑を防げるのではないかと検討しているということだった。しかし，高齢者など，乗りかえるのが大変，目的地まで乗っていたいなど，課題もある。柏市でも，高齢化に伴って，運転免許を返上したいが，足の確保ができない，コミニティバスを走らせてほしいという要求が住民から寄せられている。柏駅から市役所や公共施設を回る中心市街地の循環バスなど参考にできると思う。</p>
--	--	---